

がんばる
皆さんを応援!

株式会社タニハタ

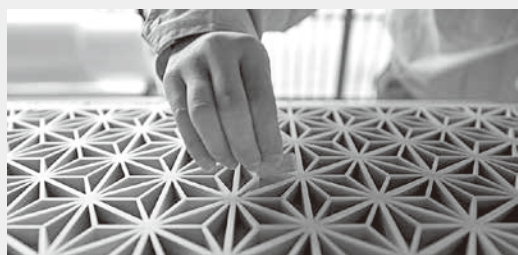
株式会社タニハタは創業以来、組子による建具や間仕切り、らんななどの製作、販売を行っています。飛鳥時代から続く伝統の技術を基本に、デジタル技術も駆使しながら現代建築に合った多様な組子を提案、製作し、国内外の商業施設、ホテルなどからの受注につなげています。

社長の谷端信夫さんに組子にかけの思いやコロナ禍における社内の取り組みについて伺いました。

60年以上、組子を製作

昭和34年に「谷端組子店」として創業し、住宅向けの組子製品を富山県内の建具店に納入していました。

「1990年代に入りバブル経済が崩壊、和室離れが進み受注が大きく減少し、東京で就職していた私も富山に戻り、当社に入りました。小売店向けに洋風格子（ラティス）を展開し一時は盛り返しましたが、安価な



▲くぎを使わず木を組む

中国製品に押されて、再び苦境に立たされました」

しかし、平成10年ごろ、インターネットにホームページを開設したところ、組子の技術等への問い合わせが集まり、ネットを介した取引も増えて軌道に乗り始めました。そこで、ラティスなどの洋風で安価な製品の製造をやめて、原点に戻り高級な和の組子製品に注力しました。

伝統とデジタルを組み合わせ

現在、東京、大阪をはじめとする各地の大型商業施設や宿泊施設、鉄道駅、空港などを中心に、国内外で年間500件以上の納入実績を重ねています。一泊数百万円のス

イトや東京オリピック・パラリンピック関連施設など、付加価値の高い組子製作に携わるうちに、技術だけでなく経営感覚も研ぎ澄まされていきまし



▲宿泊施設や店舗に設置されている当社の組子らんま。(左)は富山県アンテナショップ「ととやま」。(右)は、三井ガーデンホテル金沢(金沢市を上空から見たイメージのデザイン)。さまざまな模様をモザイクのように組み合わせることで風景や造形物を表現しています。

では、空と風と雲のイメージを表現するため、打ち合わせに4〜5カ月費やしました。顧客の思いを膨らませて、もう一段上の感動を与える必要があり、ものづくりも技術だけではビジネスとして広がっていかないと感じました」

「今年は、脱炭素を目指し、太陽光、水力、バイオマスの三つの自然エネルギー100%のモノづくりを行います」

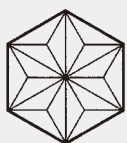
地に足を付け、中に目を向ける

令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響で商業施設向けの受注が減少しました。

「二昨年末まで続いていた残業が少なくなり、職人たちは空いた時間を活かして、忙しさで後回しになっていた道具の改良や昔からの組子の製作方法を見直したりするなどしています。地に足を付けて、中に目を向けるいい機会と捉えています」。

新製品開発や課題の取り組みにも集中することができました。総合組子力タログづくりもその一つで、一年近く費やし、今月末に発売します。創業から62年を経た「タニハタ組子」の集大成に仕上げました。今年は「守り」から「攻め」

に転じるつもりです」



▲タニハタの登録商標「麻の葉マーク」／当社が目標としている「人の幸せを願うものづくり」の想いが込められています。

喜びにつながるように

当社に勤める20代から70代までの21人全員が職人として組子製作に携わっています。



▲従業員の皆さん／本社工場

株式会社タニハタ

○事業内容

組子技術を使用した木製建具(格子の引き戸)、組子欄間などを製作

本社・富山工場

富山市上赤江町1-7-3

☎ 076-441-2820

☎ 0120-41-2872

<https://www.tanihata.co.jp>